

11月から日立LNG基地で試運転を開始します

日立港に建設中の東京ガス株式会社日立LNG（液化天然ガス）基地では、平成28年3月の営業運転開始に向けて、11月にはLPG（液化石油ガス）船、12月にはLNG船が入港する予定です。



入船後は、原料をタンクに受け入れ、設備や機器の確認・調整のために試運転を行います。その際に発生するガスを高さ35メートルの煙突から燃やして放出します。予定では、11月中旬から12月末までの間、写真のように煙突から炎が断続的に出る様子が村内からも見えますので、皆様のご理解をお願いいたします。なお、環境への影響はありません。

■期間

11月中旬から12月末まで（予定）

■場所

日立港区第5埠頭内（日立市留町2985・5日立LNG基地）

■問い合わせ

東京ガス株式会社日立LNG基地（☎0294・29・3834）



煙突から出る炎の様子は試運転によるものです。



ふるさと歴訪



自然を探して

トガリスズメバチタケ

「冬虫夏草（とうちゅうかさう）」という言葉聞いたことはありませんか？日本では、生きた昆虫やクモ類などに寄生する菌類のことを総称して、こう呼んでいます。冬の間は虫の姿をしていて、夏になると草（きのこ）になってしまうと考えられたことから、このように呼ばれるようになりました。

中国では、チベットなど標高の高い地域の草原に生息する、オオコウモリガというガの幼虫に寄生するものを冬虫夏草と呼んでおり、生薬や薬膳料理の素材として珍重されています。

オオコウモリガに寄生する冬虫夏草は、滋養強壮に効果があり、抗がん作用もあるといわれています。かつて陸上競技で圧倒的なタイムで世界記録を更新するなどして注目された、中国の「馬軍団（マーぐんだん）」の陸上選手が、冬虫夏草エキスを愛用していたことも話題になりました。

オオコウモリガに寄生する冬虫夏草は日本では見つかっていませんが、セミやトンボ、ハチ、コガネムシの仲間など、さまざまな昆虫



トガリスズメバチタケ（石神内宿）

千葉科学大学専任講師 糟谷 大河

虫に寄生する種類が、日本でも発見されています。

茨城県では、ノシメトンボやミルンヤンマなどのトンボ類の成虫に寄生するヤンマタケが、常陸大宮市などで発見されています。また、ツクツクボウシの幼虫に寄生するツクツクボウシタケや、キシノウエトタテグモという地中性のクモの成虫に寄生するクモタケが、筑波山周辺などで各地で採取されています。

2013年10月に、村の石神内宿地内の雑木林で、トガリスズメバチタケという冬虫夏草の仲間を採取しました。これは、名前のとおりスズメバチの仲間の成虫に寄生する種類で、ハチの体のあちこちに薄黄色の棒状のキノコが生えています。生きているスズメバチの仲間に菌が寄生し、体内を食い荒らした後、ハチを殺してしまうという、なんとも恐ろしい菌類です。

トガリスズメバチタケに寄生されると、強い毒を持った肉食性のスズメバチの仲間でも、ひとたまりもありません。自然界では、生物同士の生存をめぐる争いが、日々繰り返られているのです。